



7 巻6  
1228  
5



わくまざと下巻

目録

菟蒺島

中洲

三十三間堂

直助屋敷

横堀

大橋比丘尼

六間堀

大徳院前

あさき河岸

入永町

土橋

新六間

井の堀

大橋

安宅

土手側

六軒

朝鮮長任

浅草廣小路駒形  
田原町三好町

門跡前

廣德寺前

柳の下

馬道

新島越

山下

新畑

龜澤町

三島門前

金竜寺前

新寺町

弘法店

万福寺

智乐院門前

神田多町

大根島

白山

千駄木

行願寺

市谷八幡

高井戸

氷川

神明

赤羽根

根芋

牛町

丸山

赤坂

愛敬稲荷

青山

高稲荷

三田日朋町

稲荷堂

高橋

ゆくまがと下巻

菟蒨島

其歳橋原埋立地なり其芥子曰 江戸國解集覽 化文

十年小 江戸集説 を引て云け地菟蒨島と云り

俗の名なり其集立地初よりなり 少く 新の如く号

と云り安永の時酌女あり其間横上姫凡の地

なり 高時 里老 曰 寛政二年十二月

九日東世北の娼家妓女 高小 石楠へら

廢後帳妻舎不と云ら 是亦 止て七八町







大坂下不遠東の助臺相と云つた人間、鳥  
 上竿奴<sup>カハツ</sup>ありて方ハ一才振声色小  
 供存之硝子細工その外種々の名物小諸人の声  
 とど止るは江の出業は九十三軒 伏見屋  
 小松屋 山吹 春屋 備後屋 二葉 左四  
 玉 若松屋 丁子屋 伊勢中 具少屋 相屋  
 松屋 大和屋 若菜中 上徳屋 長崎  
 藤屋 藤屋 成徳屋 外屋 伊豆屋 本振  
 屋 さく波 松屋 務川屋 明石屋 無屋  
 湊屋 三河屋 桔梗屋 大村屋 茅屋 菊

市屋 千歳屋 大和屋 福富屋 吉場野 市  
 川屋 駿河屋 丸屋 小島屋 高森屋 紀伊  
 玉圃 丁子中 表花屋 表田屋 若菜中 表  
 換屋 亀甲屋 さく波 藤屋 鶴中 松屋  
 大和屋 若菜屋 若松屋 伊勢屋 堀又中  
 八ッ菱 表屋 具少中 相屋 森川屋  
 上徳屋 七村屋 山本屋 平野屋 相換屋  
 尾島屋 表竹屋 金井屋 兼屋 中村屋 伊  
 替屋 如賀浦屋 福田屋 春 八ッ松 伊豆  
 千 松屋 梅松 松枝 小川屋 尾田屋



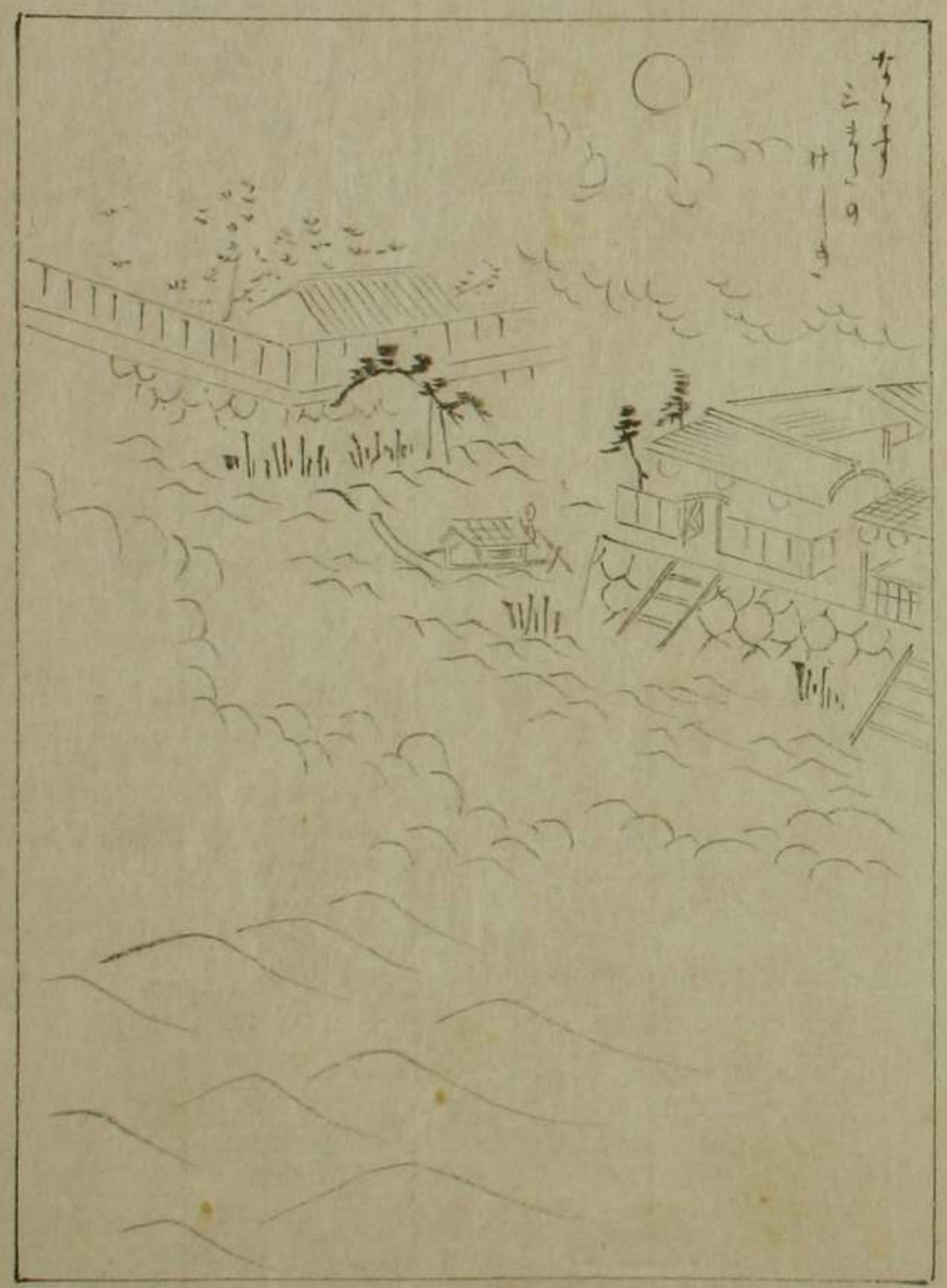




八百花より婦人より結文具原よりあはれ一立者よ  
 けお一幸よく何れも故顔と化す衣裳と飾り  
 其声とつらへも八百花世ふよ在りふとこれ  
 折一う流りし不ひかき存る下の塵はくへてお  
 ろとあはれ物狂ひとの語て麻のふなとそわさ  
 ましとのまよと八る花まよと仲花まよ雨し無里  
 好形又ハ十段者もそ声色ハ更かき鳥つき芽  
 振ととりあはれぬうし目ふ窓一奇く妙くなりは  
 ハ幸並の非人よ妻一ツニツなりさて折一出て  
 一巻となり号と一幕として折出さ  
 一幕一く仲

海ありしは五月節供く東又世何をま折し  
 の外又世物辻賣千燈万点わし中よ彼の四季

巻一五折  
 楼古麻王門  
 と始り北  
 廊の娼家  
 あ、か  
 こ小飯宅  
 して取見  
 世の振ひ



天明中の一壯親等も調うもそ一秘

梅、枝 黄標代小由こ一魚

入取町

深川入取町以深川橋より入取町と云北二所下本陽のハ  
入取町は洲崎碑銀 昌飾領永代浦築北 以二寛  
政三法あるの時赤流と人たさすとの少くは  
以後字法の音より切く流新の秘なりと云



日代北深川八幡前より北流に遊亭上在材木大  
小三千六百本拭栢橋木六百挺下場口十二外年  
五月五日深川八幡前遊亭中但一高地を回舎  
間は

**紫麻子** 中五下三十三間堂 五十六斤以淨土を何小

若くは志く 髪の内衣裏着に似たり及るは其の上

予も咽と新しき魚人のかつて安しこの不

去 七段 安八月中の茂ゆへ破塔して高台体に似

了 七段 福祿く再真土しとるへ **契園策** 遊右方角

園 旅三十三間堂 **吾好地** 三十三間堂 六百文四 **名**

**三體** 三十三間堂 四寸六寸の的りて葦衣の通  
一 其河子 **遊里花** 上上 三間堂 吾つうりて色  
いまつかい分 紫麻

こゝろ

深川永代寺門前東仲町形を **契園策** 遊右方角号  
新土橋 **甚好地** 土橋如二 **紫麻子** 下上 土橋 切直表四  
切直十 淨土ハ大方仲町小日 何事甲乙形 也  
間そやう 髪凡と仲町土橋と 芝橋 伊達と  
素 遊里花 大上と表 土橋 高し人

子々 藤原 園寺小町 石三艘 洋刺池 小神

町 垂下小引 寺芥子白 深見川 土橋 佃 見知 耕理

葉屋十二軒 田丸屋 小川屋 中 江川

屋 松葉屋 鍵屋 上徳屋 仙圓屋 金津屋

松島屋 皆河屋 白本屋 子共屋 十一軒 妖娼

沼 廿山 田中 十 根田屋 十二 任吉屋 十三 三河屋

八 伊豆屋 十 未之屋 七 福田屋 十 中野屋 九 新 一 中

九 下徳屋 十 春吉屋 十 藝者 本唄 平屋 五 中 女

四 吉古路 八 女 弟古史 大夫古 人 弟振之 人 立 藝 人

古妻三娼 山 年 子 不 付 化 土 橋 の 子 供 屋 の 一 人 不 忌

いさよ云所小居々々

里老曰此北文化の頃すうい盛なりい文政中

上甚喜一豆衣一物ふりて娼家二三軒残す

之態の同うて路々々廢ちり

直助屋敷

深川万年町 契國菜 遊二 方角子 新直分 甚好此直

助屋敷 五十分 紫麻子 中品 直助屋敷 14 日 幸 此

津土大橋安宅日 ありきす 名二 盤 松助谷 此

二切通 一 中 巨 袴 炮 子 新 之 里の こと こと 証 古 凡 部

惟三十三間堂の大矢敷の春由基も汗と流し  
新比の石のつらと四ヶ石指の人おのつらと新  
手進と春の八石所新比の跡と直助石表榎表  
樽祢徳榎佃新比中へ土指仲町へ土盛の石  
多く北里石上く直衣東の石をハ物淋  
い 安達原

新六新

其北未詳石二鑑新六間堂相生の春由基二  
つ現の子安地花菩薩安を深川の石橋の石あり

よこがさ

其地未詳契國策遊二方角辰辰横地石二鑑横地  
村 四六時中水北の徳へ

井の堀

深川扇形町日新石島町日新末廣町の辺  
世麻子下堀井の堀三十三字で世津土替の凡衣  
妻若くは人ゆへ大極大津魚の如く上達者  
かゝハ女形病者多し但し取よよく安んず



世ハ行徳川岸人々。雨凡の日ハ永名橋又ハ永  
 代橋の下ハ見世と云ふは数三人ハ下坂稲并橋  
 へ出たせく号と名つけて永饅頭と云ふ  
 石下鑑  
 あり小取まんざりと云ふは浮き行て少一の古本  
 場の上小橋橋と云ふ暑温下痢の氣と云はて所  
 目とゆき垂と生と云ふは差の長短あり有るは  
 まとも花の敷を三十二小橋と入相の頃と云  
 意小何と云ふの凡ふささりれ流と出中流若橋の  
 辺小多く深ふ又所く泊る永のわと云ふ  
 と流と云ふは世元流と云ふは川の元と云ふ

考とわげハ鼻のまげ。事と云ふは珠の不委多き  
 草水と云ふ甚好祀 何二へ有る知と云ふ 二三文 進里花  
 上「万葉集 及「新撰 田所「三田 在「耳 宿「野 有「夜 有「夜  
万葉集 及「新撰 田所「三田 在「耳 宿「野 有「夜 有「夜  
 知、漢所河岸若橋を迫ると云ふの川岸人永饅頭と  
 云ふ永と云ふ者ありて云ふ下流の娼婦水と  
 餘福昔のまけりとも云ふ





かゆるゝ凡々吹付バのウ永名松の下へ舟付  
るハナカウヤつていき旅人ナアカウ而チヤ  
〜のおちよ川

耳傳 賤技藝師より加護ある事 注所川岸果傍  
を迎へての河原へ取鏡取して取うて妻女と  
者ありて下流の娼婦の如くわく昔の事なり  
しう市下町迎町家の居い者大晦日よまくの  
舟小舟と妻女を集めて河原邊とわく〜  
佐江へ群衆のまゝ立ちていさゝか雲雨の交へ  
て立別とてお姫と集集と入と〜成布

